

第31号
発行所
下関市こども発達センター
〒751-0827
下関市幡生本町26-12
TEL 083(233)9850
FAX 083(233)9851



下関市こども発達センター広報誌

わんぱく つうしん



「いあごころ」

下関市こども発達センター
センター長 後藤 吉秀

新時代「令和!」。皆様それぞれの思いでこの「令和」という時代を迎えられたと思います。

「令和」という言葉の意味として様々な解説があったように記憶していますが、私なりの解釈として「この上なき平和」という意味がふさわしいと感じています。昨今は、「分断」・「格差」等々の言葉に象徴されるように、あらゆる場所や場面での他者への許容性が徐々に低下しているように感じます。このような時代だからこそ、誰もが安らぎを感じながら平穏に暮らせることが求められていると思います。

当センターでは、利用児の皆さんが日々の療育・訓練を通じて、生きる力を楽しく身につけることができるよう、様々な工夫を凝らして取り組んでおります。

私たちはまもなく令和最初の卒園児さんを見送ろうとしています。卒園児さんよりも、利用児の皆さんが笑顔や歓びの声のままに色々なことを身につけてくれて、やがて社会に旅立っていったときに、周りの人々の心に優しさや安らぎを与える存在となることを願っています。

これからもそのことを目指して職員一同努力してまいりますので、ご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

ペアレントメンター

初めまして。ペアレントメンターについてご案内させていただきます。
メンターとは、「信頼できる相談相手」という意味です。発達障がい、自閉症の子どもを育てている親が、山口県メンター養成講座を受講し務めています。

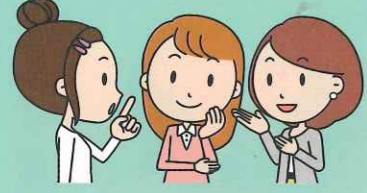
発達障がい、自閉症の子どもを育てている親が同じような経験を通り抜けてきた一人の親として悩みを聞いたり、経験談をお話したり、情報提供を行っています。

ペアレントメンターは、専門家ではありませんが、同じ親としての視点を大切にしています。参加して頂いた方にとって、何か子育てのヒントになったり、来てよかったという気持ちになってもえればと思います。

時間とともに解決する悩み、すぐには解決できない悩み、それぞれ抱えるものがあります。誰かに話すことや経験談を聞くことで、我がこのことをほんの少しでも理解できたり、気持ちがお楽になったりすることがあると思います。

現在活動は、こども発達センターの保護者会茶話会・勉強会、市民活動センターにて毎月第二金曜日に相談会を開催しています。

一人で悩まずに、同じ親だからわかることがあるかもしれません。皆さんのご参加お待ちしております。



『発達障害児の支援を共に考える講演会』を開催しました!

令和2年2月1日、当センター主催、山口県スクラム下関(支援機関連携事業体)共催の講演会を開催しました。演題は「高知県における発達障害児支援の実践〜ペアトレ・ペアプロとESSENCEを中心に〜」ということで、講師にJA高知病院小児科の本浄護士先生をお招きしました。本浄先生は、高知県でペアレント・トレーニングやペアレント・プログラム、ティーチャーズ・トレーニングの考え方の啓蒙や、実践する支援者養成に尽力されています。さらに、ESSENCEという概念(行動が気にかかる子どもの方を整理し、今後の発達や支援を視野に入れた概念)を広く紹介することにも携わっております。

当センターは、数年前からペアレント・トレーニングの啓蒙や幼稚園・保育園・こども園に向けたティーチャーズ・トレーニングの実践に取り組んでいます。下関市での展開についても、高知県の取り組みが手がかりになればと思い、お話を伺いました。本浄先生は、各地各分野の人材とつながり、それぞれの持つ力を発揮させることで展開されておられるようでした。高知県は、専門の医師や療育機関がなくても「地域でできる支援」「子育てに役立つ支援」を軸に県全体で取り組んでいます。また、厚生労働省は、障害保健福祉分野だけでなく、児童福祉、保育、母子保健の分野にもペアレント・プログラムの導入を促進するよう通知しています。近年のこうした動きからも、「横のつながり」は今後さらに強調されるテーマとなりそうです。専門家や専門機関が支える形から、専門機関と地域とがつながり、互いに支え合いながら、地域全体で子育てに携わっていく...、そうしたビジョンが浮かびます。下関市でも、このビジョンを形にすべく、まずは「できるところ」を見つけ、下関市こども発達センターと地域の関連機関と共に実践に繋がっていきたいと思っています。



下関市こども発達センター 令和元年度をふりかえって

はたぶ園



うさぎ組

うさぎ組は、男の子2名、女の子7名、合計9名のクラスです。

今年は、女の子7名の女子華やかクラスで、男の子は優しいイケメン2名です。笑顔いっぱい!! 元気いっぱい!! で、過ごしています。

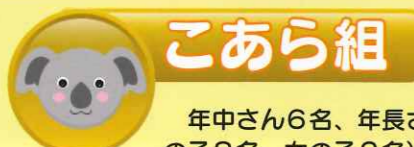
朝の会では、大型絵本のだるまさんシリーズやパネルシアターが大好きです。絵本の始まる歌やパネルシアターの歌が聞こえてくると、みんな嬉しそうに集まっています。

活動では、ボウリングや紙あそび、運動あそびやミュージックセラピーなど沢山の経験を重ねています。活動の中で簡単なルールを経験したり、手先の操作性や身体を使っての遊びを通して色々な体験をしています。

職員や友だちと一緒に場面や遊具を共有して楽しんだり、みんなで笑顔いっぱい笑いあう様子はとても微笑ましいです。

そして、最近のクラスの流行は、「パブリカ」です。曲が流れてくると皆笑顔になったり、踊ったりと、それぞれの「パブリカ」を魅せてくれています。

これからも、子ども達の成長がとっても楽しみです!!



こあら組

年中さん6名、年長さん4名の計10名(男の子8名、女の子2名)のクラスです。そんなこあら組はとてもパワフルで、いつでも活動やあそびに全力で取り組んでいます!

園庭に出ると必ず三輪車に乗り配達ごっこをしたり、砂場ではお友達と協力してトンネルや線路を完成させたりします。一方室内では、もくもくと集中して粘土で具体物を作ることや好きな絵本をじっくり眺めることにもまっています。さらにお友達との関わりが増え、優しく物の貸し借りができ、誰かが泣いていると心配してくれるようになりました。子ども達にとって、お友達が本当に大切な存在になっています。

また、1日のスケジュールを写真カードで呈示することで納得して行動できるようになっています。これからも楽しい経験をたくさん積んでいきたいと思っています。



きりん組

きりん組は3歳児さんから5歳児さん10名のクラスです。男の子7名、女の子3名で、みんな心優しい穏やかな子どもさんたちばかりです。

4月頃はおもちゃの取り合いバトルはとても激しかったのですが、最近では「貸〜し〜て」、「か〜わって☆」、「1、2、3、〜かわりましょぼぼ〜」と、子ども同士で交代できることも増えてきています。トランポリンでは5、6人で一緒に跳び、すべり台では4、5人でつらなすべり、2、3人で追いかけて「よーいどんごっこ」を楽しみ、自転車では二人乗りと、いつでもお友達と一緒に楽しいきりんの子どもたちです。また、食欲旺盛、出席率も抜群にいいクラスです。子ども達の笑顔がいつも輝いていられるきりん組でありますように☆楽しい経験をたくさん積んでいきたいと思っています。



ぞう組

ぞう組は年長さん4名、年中さん5名、年少さん1名、男の子9名、女の子1名の計10名のクラスです。外あそびが大好きで、追いかけてごっこや三輪車やブランコ、砂あそびなど、毎日元気いっぱい楽しんでいます。夏にはバツをつかまえたり、アリの観察したりとみんな興味津々で楽しんで遊んでいました。4月当初は、それぞれが好きな遊びを楽しんでいましたが、今は2〜3人で集まって遊んだり、朝、一日のスケジュールを確認して理解して楽しみにしたり、カードで場所を移動したりもスムーズになりました。ブランコなどの順番も10数えたら交替ができるようになりました。これから、どんどん成長していく子ども達が楽しみです。



発達支援室

今年度4月より臨床心理士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士の各専門職が増員、複数体制となって、当センターと児童発達支援どーなつ各々における支援が始まり、1年が経ちました。各々の場所における個別訓練や療育への参加、関係機関との連携など、その体制も徐々に定着して来ているところです。

年度当初は、新しい環境に慣れなかった子ども達も、夏を過ぎた頃より、徐々に持っている力を発揮し、成長していきます。その過程に保護者の方と共に関わることが出来、幸せに感じています。今後もよりよい支援が出来るよう努力していきたいと思っています。

キッズハウス

4歳未満の親子を対象に毎週木曜日の午前中活動を実施しています。

年齢は2歳初めから3歳代のお子さんが多く在籍されています。キッズハウスを利用することで、初めて集団を経験するお子さんも多く、最初は色々戸惑いを感じて泣いてしまうこともあります。が、利用回数を重ねていくうちに歌遊びを覚えたり、着席ができるようになったりと徐々に自分以外の物や人に興味が出てきます。

保護者の方と活動を通して様々な遊びを経験することで楽しいと思えることを増やしていきます。

次のステップの準備を遊びを通してできたらいいなと思います。

下関市こども発達センター豊浦

下関市こども発達センター豊浦の放課後等デイサービスの一部の子どもの間で『ババ抜き』がブームになっています。カードを1枚引くごとに一喜一憂し大盛り上がりなのですがすぐにババの場所がわかってしまいがちですが、それがまた楽しいようで子どもたちの笑い声が館内に響きわたっています。



下関市こども発達センター どーなつ(児童発達支援)

年度当初97名でスタートしたどーなつですが、今では125名の大所帯です。初めは不安いっぱいの子も達でしたがすっかり慣れてたくさん笑顔を見せてくれるようになりました。

どーなつが中央こども園隣に移転して2年目、昨年度お休みしていた水泳療育を午前のグループで再開しました。センターのプールを使用するため現地集合、現地解散です。子ども達はプールが大好き。6月から10月まで月1回のプール遊びでしっかり全身運動を楽しみました。

午後のグループも集団遊びやお買物体験など楽しいこといっぱい! 週1回程度の活動ですが、様々な遊びを通してお友達と遊ぶことの楽しさや仲間意識、ルールを知り他者といろいろな経験をすることで子ども達の世界がどんどん広がればいいなと思っています。



診療所

スタッフも少ない小さな診療所ですが、開院以来、発達に関する診療を地道に行なっています。他の施設や地域同様に、当院においても年々受診を希望される方が増えており、初診まで2〜3カ月待ちの状況です。しかし療育を希望される幼児期のお子さんにつきましては、発達支援の場にはできるだけ早く繋がるよう、待ち時間の短縮を心がけています。ご家族が子どもの発達に何らかの不安を感じ、初めて医療の場を訪れる時には、色々な思いを抱えて来院されます。この出会いの時にどのような時間を過ごすかが、その後の療育に大きく影響すると考え、スタッフ一同丁寧な対応を心がけています。子どもの思いを代弁し、そしてご家族が抱える不安や困り感を受け止め、親子ともども元気で前向きに、日々生活できるような診療を行っていきたくと考えています。

